

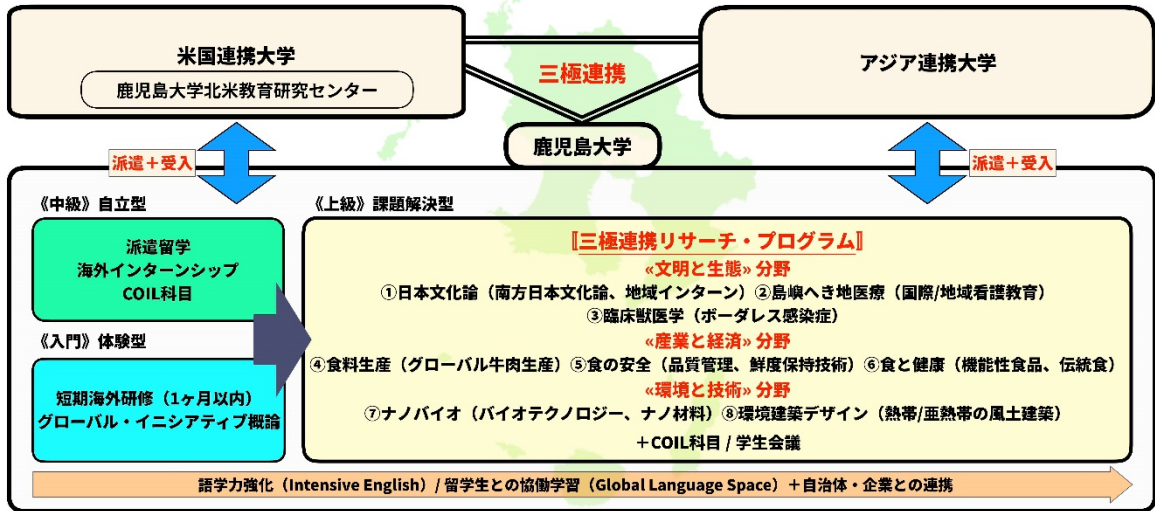
大学の世界展開力強化事業(2018年度選定) 鹿児島大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2018年度・(タイプA))

米国から鹿児島、そしてアジアへ—多極化時代の三極連携プログラム

【交流推進事業の概要】

本事業は、本土南端の鹿児島をアジアの玄関口として、米国とアジア諸国の大学の三極連携を構築し、鹿児島の自然環境や地域社会をフィールドに、地理的最端性や文化的境界性を特徴とする課題解決型リサーチ・プログラム(上級・大学院、学部専門科目)を開発し、オンライン協働学習(COIL)等によって世界的な課題や地域社会の持続可能な発展に取り組むとともに、鹿児島の魅力を発信して特に米国との双方向交流を増加させることを目的とする。また、基盤となる既存の共通教育科目海外研修等(入門、中級)でも一部COILを採用し、連携校の双方向交流を活発化し、波及的に留学生受入体制の整備や教育の国際通用性を高めて、本学のグローバル教育を大きく発展させる取組でもある。



【交流プログラムの概要】

新たに開発するリサーチ・プログラムは、共通テーマ「多極化する世界をつなぐ」を掲げ、本学の6学部・1研究科、米国7大学、アジア諸国8大学の三極連携により、協働で教育研究を行う3分野8コースからなる。「文明と生態」分野に①日本文化論、②島嶼へき地医療、③臨床獣医学の3コース、「産業と経済」分野に④食料生産、⑤食の安全、⑥食と健康の3コース、「環境と技術」分野に⑦ナノバイオ、⑧環境建築デザインの2コースを置く。各コースで派遣・受入交流プログラムを計画し、その事前事後学習としてCOIL型科目を活用する。また、コース別に連携大学合同シンポジウムを開催して交流する計画もある。

【本事業で養成する人材像】

日本人学生: グローバルな視点とネットワークを武器に、世界が抱える課題に取り組む人材。価値観の大きく異なる欧米とアジアをつなぎ、民主的かつ協調主義的な国際秩序の形成に寄与する人材。

米国人学生: アジアに目を向け、世界の多様性を尊重する人材。欧米中心の価値観を乗り越えて、多極化時代にふさわしい国際秩序の形成と維持に大国としての役割を果たすことができる人材。

【本事業の特徴】

- ① <Location> 鹿児島の地理的位置、自然環境、アジアとの古くからの交流、文化の混交など、いずれも鹿児島の地の利(地理的最端性や文化的境界性)を活かした魅力的な受入プログラムを開発する。<Innovation> グローバルな視点で地域課題に挑戦し、新たな価値を創出する。<Collaboration> 国際協働で多極化時代の新たな秩序(共生の枠組)を構築する。
- ② COIL型教育の活用—派遣や受入の事前事後学習として、連携校との共通課題を設定して、英語による講義や学生プレゼンテーション、討論等を行う。また、オンライン利用の国際学生会議を年1回開催し、交流と討論の機会とする。

【交流予定人数】

	2018	2019	2020	2021	2022
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (日本人学生)	98	108	133	138	154
本事業におけるCOIL型教育の受講者数 (外国人学生)	138	152	179	189	197
学生の派遣	8	118	113	122	106
学生の受入	44	72	80	80	84